



平成31年度日本中央競馬会畜産振興事業について

成鶏処理流通円滑化推進事業として応募し、 実施主体候補として決定しました

(1) 事業の概要

この事業は、成鶏のアニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）に配慮した輸送・保管並びに成鶏肉の消費拡大を推進するため、鶏生体輸送容器の検討及びモデルの作成・普及を図り、国際的なAWへの取組に対応するとともに、鶏本来の旨味と適度な歯応えを味わせる調理方法をPRし、商品価値を高め、成鶏肉の消費拡大を図ることにより、成鶏処理流通の円滑な推進と国内鶏卵産業の安定化に資することを目的としています。

(2) 事業内容

① 鶏生体輸送容器開発

AWに対応した成鶏輸送を推進するため、鶏の輸送・保管実態の把握及びAWに対応した鶏生体輸送容器を検討・開発し、モデル容器を作成、提示することとしています。

② 成鶏肉消費拡大対策

成鶏肉の需要拡大と商品価値を高めるため、新たな調理方法等を開発するとともに、レシピ集の作成や試食会等を開催し、消費者等への普及・宣伝を行うこととしています。

アニマルウェルフェア対策協議会 名称変更について

2019年4月19日、馬事畜産会館にて2019年アニマルウェルフェア対策協議会第1回委員会が開催されました。会議冒頭、秋田善祺政策担当顧問より、日本の気候風土、生産システムに合ったアニマルウェルフェアの重要性についてお話がありました。

議事に入り、協議会の名称変更、会費（寄付）及び組織の持ち方等が議論され、「アニマルウェルフェア対策協議会」の名称は、「**採卵鶏**アニマルウェルフェア対策協議会」と畜種がわかるように変更されました。



2019年IEC（国際鶏卵委員会）春季大会 — 1

2019年IEC（国際鶏卵委員会）春季大会が4月7日(日)から9日(火)まで、モナコ公国モンテカルロのル・メリディアン・ビーチプラザホテルで開催されました。

IEC 春季大会は、IEC が事務局となり年2回開催する春バージョンの国際会議です。この会議は、世界各国の鶏卵の生産・流通・販売等養鶏産業の関係者が一堂に集い、演者を招いて最新の情報交換、商談、各種のネットワークや人脈の構築等のために開催されます。

前回の2018年秋季大会は京都で開催されました。今回会場となったル・メリディアン・ビーチプラザホテルは、モナコ公国モンテカルロ東端に位置し開放感あふれるホテルです。

2日間で15もの論題について講演されましたが、そのうちいくつかの概要（未定稿）を紙幅の許す限りご紹介します。

■現代の小売業の変貌について（英国食料品流通研究所 S. ウェインライト）

- ・人口動態により小売りが変わる。都市の一人暮らしが多くなると従来の大量購入は少なくなり、直接小売りに影響が出る。
- ・テクノロジーの進展で消費者自身の考え方が変化し、要求度が高くなる。
- ・従来から大規模スーパーの進展がみられるが、最近では外見が倉庫のような大規模なディスカウント店舗が増えてきている。これらはアジアでの成長が著しい。欧州ではALDI（アルディ）*やLIDL（リドル）*のほうがテスコ*やカルフル*より伸びてきている。アジアではJD（京東商城）*とアリババ*特にセブンイレブンが強い。北米はウォルマート*独走。
※海外各国の大手小売業各社
- ・5つのトレンドがある。
 - ① データの重要性（ウォルマートはMS社のITを活用し小売りからバックヤードまでの統計を取っている）
 - ② 良いことをすればそれは良い事業につながるという発想（持続性、ウェルフェア、卵の個別購入を可能にし、ロスをなくす等）
 - ③ シームレスストア（ITを活用し円滑で効率の良いショッピングを可能にする）
 - ④ 健康志向
 - ⑤ Anytime Anywhere（ITを活用し注文から配送までスマホで可能にするなど）



これからは、既存の小売りがITの進展などによる社会の変化に対応することが必要になる。今後消費が少なくなるので、スーパーやハイパーは対応を迫られるだろう。その時のコンセプトは新鮮さと、ここに行けば何でも買える、コンビニにあるような調理品が売っているということ。LIDL(リドル)は卵がどのように生産されるかを消費者に見せる方向にあり、オンラインやディスカウントも進めている。

- 今後はインターネット等IT技術による情報等の連結、キャパシティ、それと製品のより良い販売、例えば卵を直接農家から外食産業に翌日配送するとかの能力の3つ(3つのC; Connection, Capacity, Capability)が重要になる。
- これから小売りが注目すべきは、ライフスタイルの変化、健康志向、back to the winning growth channels、そして消費者行動についてよく考えることだ。

■すべての養鶏家のための世界的な鶏舎の仕様標準などについて

(米国農務省獣医局 M. デービッド博士)

- OIEの基準ではケージ飼育を禁止しようという意図がある。米国のCBO(首席獣医官)は、英国IECのジュリアン氏とともにこうした現状を変えようとOIEに働きかけている。
- 米国ではすでにケージフリーが進展しているが、OIEの決定は世界に影響を与え消費者への負担の増大もあるので、採卵鶏のOIE基準の修正2次案で止まり木、巣箱の設置が義務付けられたことに対し、大きな懸念を抱いている。
- OIEのコード案に対する意見は科学的根拠がなくてはいけないが、そもそも経済的に無理な規格もある。OIEから出された案に対し、我々は関連団体等に投じて意見を集約し、それを、代表団を通じてコメントとしてOIEに物申してきた。
- 平成29年11月に公表された先の修正1次案は語句の使い方も適切であり歓迎すべき内容で、そこにはバタリーケージも含まれ、フリーレンジもエイビアリーもあり、アウトカム(成果)ベースのクライテリア(尺度)だった。ところが平成30年11月に公表された修正2次案に対しては、内容的に懸念事項を明確にする必要があると判断しコメントを提出した。
- 当初巣箱や止まり木はare offered「提供される」だったが、修正2次案では「提供されなければならない」とshould beとなった。こうなるとmustとも読めるので語句の解釈の問題が生じる。当初は可能な範囲で(where possible)とか、望ましい(are desirable)とかの解釈上問題が生じない語句の使い方をした案だった。このように修正2次案では表現の問題もあるので、2019年1月に我々はコメントをOIEに提出した。



- ・我々のコメントを受けて修正案が出るとすれば、今年の 11 月頃に修正 3 次案が出されるだろう。

■ビジネスに持続可能な価値をもたらす将来の農場基準について

(カナダ IEC 会長 ティム・ランバート)

- ・新世代の人たちを中心に変化が起こっている。彼らの世代は規格や基準に敏感で、動物やAWに対して関心が高い。
- ・スマート農業や持続可能な養鶏を通じて、こうした変化に対応できさえすれば我々は自分たちの成長を見て確かな未来へ進むことができる。
- ・G I S EとはGlobal initiative for sustainable eggsの頭文字で、①バイオセキュリティー、②AW、これはあまり「がちがち」でないのが好ましいわけだが。③抗菌性物質による耐性菌の問題（AMR）、④環境重視、を具体的な内容として卵の社会的な側面からの持続可能性を標榜するもの。
- ・我々がコミュニケーションを取り、リーダーとして何ができるか、鶏卵産業の将来の発展に何ができるか、アイデアはどこにあるかを常に模索すれば、卵を通じて必ずそれが社会貢献につながる。

(6月号に続く)

HACCP導入の手引書について

鶏卵選別包装施設・液卵製造施設へのHACCP導入義務化を受け、下記サイトに手引書が公開されましたのでご参照ください。

<http://www.nichirankyo.or.jp/haccp-dounyu/> (日本卵業協会サイト)

協会活動報告

青字下線部クリックで、(一社)日本養鶏協会ホームページ内該当事業のページが開きます

[鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

- ① 価格差補填事業の事業参加者との
契約数量 (トン/月当たり)

平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353
平成30年度	169,171

- ② [4月の標準取引価格 168.54 円/kg](#)

平成30年度安定基準価格 163 円/kg
平成30年度補填基準価格 185 円/kg



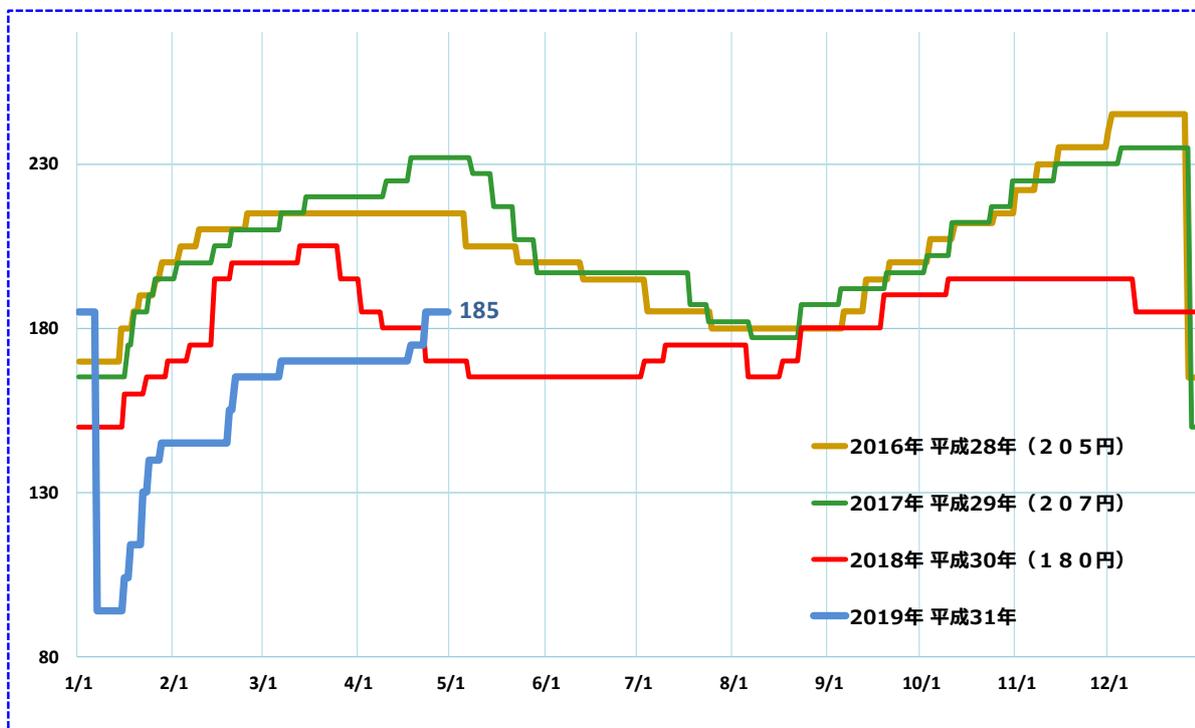
統計データ

【相場動向】 過去10年間の4月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成22年	177	208	164
平成23年	245	278	234
平成24年	182	208	169
平成25年	172	198	164
平成26年	223	248	214
平成27年	227	253	214
平成28年	215	233	209
平成29年	227	250	214
平成30年	179	203	164
平成31年	174	203	164
平均値	202	228	191

平成31年4月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値（174円）、高値（203円）、安値（164円）ともに、過去10年間で平成25年に次ぐ安い相場となっており、特に過去10年間平均と比べ平均値・安値とも約1.4割安い相場となっています。

【鶏卵相場推移 2016年～2019年 東京全農Mサイズ 円/kg】



卵価は月初170円、中旬より上昇に転じ、月末には185円となりました。前年同日と比較し15円増であり、年初からの前年比割れはひとまずストップしました。



【鶏卵関係主要計数】平成 31 年 2 月までの 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
3月	9,940	102.0%	522	101.7%	896	102.3%	217	201
4月	9,503	104.3%	477	101.8%	885	97.6%	227	179
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
6月	9,193	94.2%	482	101.6%	908	107.7%	197	165
7月	9,902	111.4%	446	98.0%	844	97.4%	191	173
8月	8,723	104.6%	488	99.9%	853	100.5%	182	172
9月	8,897	98.7%	451	97.2%	882	102.8%	194	184
10月	9,972	108.1%	508	104.2%	913	100.4%	211	194
11月	9,690	101.8%	502	101.6%	901	100.2%	228	195
12月	8,709	95.9%	533	99.6%	934	99.8%	234	188
31年 1月	9,706	103.4%	490	102.4%	881	99.1%	159	121
2月	8,293	91.8%	464	100.6%	827	96.0%	189	152
1年間合計 平均(%)	112,563	102.3%	5,866	100.8%	10,689	101.0%	204 (平均)	174 (平均)

注：雛餌付羽数は全国推定値

- ・雛餌付羽数は、8,293 千羽（前年比 91.8%）と前年を下回り、年間では前年比 2.3% 上回って推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、464 千トン（前年比 100.6%）と前年を僅差で上回り、年間では前年比 0.8% 上回って推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、827 グラム（前年比 96.0%）と 3 ヶ月連続で前年を下回りましたが、年間では前年比 1.0% 増と堅調に推移しています。
- ・雛餌付羽数は抑制されましたが、引き続き鶏卵価格の動向につき注視が必要です。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号 馬事畜産会館内（5 階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2019 年 5 月 8 日

編集・発行責任者：浅木 仁志(info@jpa.or.jp)

